

## 議案 第 1 号 2018年度事業報告（案）（代表理事・業務執行理事）

定款第 10 条(1)に即した事業報告

<全般>

2018 年度は役員の改選はなく 6 月 2 日(土)に第 8 期がスタートした。事業全般については、日本陸連主催大会の第 20 回長野マラソンと第 102 回日本陸上競技選手権大会混成競技の主管の他、日本混成で同時開催していた長野県選手権混成競技を独立させ 10 月に実施するなど、予定通り事業を推進できた。

また、大きな課題である 2027 年の長野国体に向けては、11 月の長野県国体準備委員会で主会場が「松本平運動公園陸上競技場」に確定され、改築や改修について検討されている。本協会としても昨年度立ち上げた 4 プロジェクトをさらに活性化させ、準備を進める必要がある。その他、本協会の質的な高まりのために、法人化発足当初暫定的に設置された「全体協議会」の廃止、地区選出理事を 1 名増加し 3 名とするなど定款を改定した。同時に定款細則を制定し、これまで定義されていなかった四地区陸上競技協会の位置づけを明確にするなど、一般財団法人として責任ある団体として存続できるよう、関係上部団体とも連携を取りながら進めた。

<項目別>

### 1. 陸上競技の普及に関すること

- ・各専門部の練習会や記録会を事業計画により実施している。
  - ・長野国体開催に向けて、小学生からの選手発掘、中高連携等育成を計画的に実施する必要がある。
- (1) 第 35 回長野県陸上競技小学生大会を 6 月 24 日に開催するなど、底辺の拡大を図った。
- (2) 第 34 回全国小学生陸上競技交流大会（8/17～19、神奈川）へ長野県選手団を以下のとおり派遣した。
- ・選手：5・6 年 100m、80m ハードル、走高跳、走幅跳、ジャベリックボール投、400m リレー  
各種目男女 1 名ずつ（リレーは 5 名）計 22 名
  - ・役員：監督 1 名、指導者 3 名（公認指導者）、コーチ 10 名、支援コーチ 4 名、計 18 名
  - ・結果：2 種目で入賞を果たした。  
入賞者：木内 光波（佐久ドリム）男子 80mH 4 位 12.44(+1.0)  
大熊 杏美（坂城 JAC）女子 5 年 100m 4 位 13.73(+0.7)  
<女子 4×100mR 坂城 JAC C 決勝 4 位 54.79>  
トラック種目はタイムレース予選で、予選記録 1～8 位は A 決勝、9～16 位は B 決勝、17～24 位は C 決勝となる。
- (3) 同全国大会に出場する選手団の事前研修会を実施した（7/30、茅野市、指導者 22 名・選手 22 名）。
- (4) 全国小学生クロスカントリー研修大会予選会を 7 月 21 日に白馬で開催した。全国大会（12/9、大阪）には 7 位のヤマリククラブ（山形小学校）を推薦した。これは、同一チームが 2 年連続出場はできない（大会規程）ため、県内最高位 6 位の駒ヶ根中沢 RC-A は昨年出場のため権利がなかった。  
全国大会は平成 30 年 12 月 9 日（日）、大阪府万博記念公園にて開催され、同チームは総合記録 33 分 28 秒で 31 位であった。
- (5) 全国普及育成担当者会議（11 月 30 日、東京都品川 TKP カンファレンスセンターにて開催）へ篠原普及部長を派遣した。
- (6) JAAF U 1 3 陸上競技クリニックを陸上教室事業として、2019 年 3 月 9 日（土）松本平広域公園陸上競技場にて開催した。
- (7) ジュニア（中学生）の普及強化については、選手育成事業として定期的実施した。

### 2. 強化・育成に関すること、長野県の代表選手を選定し派遣すること

選手強化育成事業、派遣事業とも例年通り実施し、以下のとおりの結果を収めた。

- (1) 第 73 回国民体育大会：10 月 5 日（金）～9 日（火）、福井県 9.98 スタジアム

伊藤 大志 男子少年 B3000m 2位入賞他 11種目入賞、得点 33.5点。

天皇杯得点 43.5点 (参加点 10点含む) 競技別順位 27位/47 (H29:65点 11位、H28:76.5点 10位)

皇后杯得点 30.5点 (参加点 10点含む) 競技別順位 16位/47 (H29:41点 9位、H28:50.5点 6位)

(2)第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会：10月12日(金)～14日(日)、横浜・日産スタジアム  
土屋 ほのか(軽井沢3) 女子 B100mH 優勝、倉田 紗優加(南箕輪2) 女子共通ジャベリック・スロー 優勝 54m67、  
県中学新、これらを含む6種目に7名が入賞。高校1年生2名が出場し1名が入賞した。

(4)第34回東日本女子駅伝：11月11日、福島市(42.195km)、2位 2時間19分07秒

(5)皇后盃 第37回全国都道府県対抗女子駅伝：1月13日、京都市9区間(42.195km)、6位 2時間17分47秒、過去最高順位、最高タイ記録、優秀選手に第4区区間賞に輝いた小林成美(長野東高校)さんが選出された。

(6)天皇盃 第24回全国都道府県対抗男子駅伝：1月20日、広島市(48.0km)、3位 2時間20分22秒

(7)その他

日本代表として以下の選手が出場し以下のとおりの成果を収めた。

・第17回U20世界陸上競技選手権大会 7月10日(火)～15日(日)、場所：タンペレ(フィンランド)

中谷 雄飛(早稲田大学1)、7月14日、男子5000m 14:39.78 17位

和田 有菜(名城大学1)、7月11日、女子3000m 9:00.50 PB 4位入賞

・第26回日・韓・中ジュニア交流競技会 8月25日(土)、26日(日)、韓国の麗水(ヨス)市

【1日目】8/25 萩谷 楓(長野東高3) 女子1500m 4.29.44 1位

【2日目】8/25 萩谷 楓(長野東高3) 女子1500m 4.20.82 1位

・ジャカルタ2018アジア競技大会 8月25日(土)～30日(木)、ジャカルタ(インドネシア)

川元 奨(スズキ浜松AC)、8月28日、男子800m 1:50.87 7位 入賞

8月29日、男子4×400m(木村淳 - 川元奨 - 安部孝駿 - ウォルシュジュリアン) 予選1着 3:06.11

・日本選手権(優勝1,4名入賞) ※長野県出身者含む

・日本学生(優勝1入賞4) ※リレーを含む

・全国高専(優勝4入賞8)

・高校総体(入賞8)

・全国中学陸上(入賞4)

・小学生交流大会(入賞2)

・U20(優勝1入賞3) -U18(入賞無し)

・ジュニアオリンピック(優勝2入賞5)

上記成績から一定の事業評価はできると考える。今後は更に、2027年国体に向けても強化策を工夫し、全国で活躍できる選手の継続的育成に努めなければならない。

### 3. 長野県における陸上競技の大会及び記録会を開催すること

2018年度のトラック・フィールド競技会及び駅伝大会は全て予定通り終了した。今年度の大きな課題は、競技役員に係わる事故対策である。2件の重大事故の他に、「ひやり」「はっつ」が報告されており、インシデントからアクシデントに発展する要素を含んでいると言える。これまでの事例を検証し、審判員として、「すべき行為をしなかった場合」と「すべきではない行為をした場合」等に分類し対策を練る、さらに事例集や「長野陸協運営マニュアル」を作成し、初めての審判員が任務についてもベテランと遜色のない任務を遂行できるように考えたい。また、県選手権2日目に青柳競技運営委員長から全審判員に状況説明と注意喚起を行った。今後も継続的にあらゆることを想定し緊張感をもった業務遂行が必要である。これらについてはここ数年、総務席の移動、部外者を審判諸室へ入室させない、TICやマーシャル業務の強化などに取り組み、成果は高まっていると思われる。更に、暑い日に長時間業務を担当することを避けるなど審判の業務軽減、審判員の若返りとともに、審判数の増加が大きな課題である。審判員獲得対策の一つとして、高校3年生を対象に新規審判講習会を開催し、高校3年生50名余りの参加を得たことは明るい話題であり、今後高校生並びに顧問教諭等にも呼びかけ浸透させ、審判員増加を図りたい。

#### 4. 陸上競技の指導者を養成すること

- (1) 日本スポーツ協会公認指導者資格取得研修会へ酒井剛先生（赤穂中学）、中島紀子先生（開成中学）、石川和義先生（長野吉田高校）の3名を派遣し、「陸上競技公認コーチ」の資格を受講し試験に合格した。
- (2) 長野国体にむけて指導者育成が競技力向上の鍵となるため、次年度はジュニアコーチ養成講座を開催する予定である。

#### 5. 審判員及び検定員の資格付与に関すること

今年度は、S級昇格5名を日本陸連へ推薦し全員が認められ委嘱された。また、A級昇格6名、B級新規取得83名（一般37名・高校3年生46名）を認めた。今年度から高校3年生対象の講習会を別枠で実施（地区新人大会時）したことから、大幅に取得者が増えた。長年B級審判員で留まっている方に、A級昇格を強く働きかけたい。また、検定員については赤沼広志検定員を継続推薦した。

#### 6. 陸上競技を研究し、機関紙、刊行物を発行して情報を提供すること

2018年度要覧を平成30年4月21日発行した。長野陸協会報は、163号（H30年7月7日発行）、164号（H30年12月11日発行）、165号（H31年3月31日発行）を発行した。また、長野陸協ホームページ上で、長野陸協各種事業・大会等、日本陸連、日本体育協会、長野県体育協会、長野陸協協賛企業各社他の情報を随時提供している。

#### 7. その他、この法人の目的達成のために必要な事業を行うこと

- (1) 2027年に開催が予定される2巡目の長野国体に向けてプロジェクトを進めている。
- (2) 長野陸協定款を改定した。また同細則を制定し、これまで定義されていなかった県内4地区を長野陸協の下部組織として位置づけた。同時に各種規程等を見直した。
- (3) 長野陸協創立70周年記念事業の一環として、新長野陸協旗を3枚作成した。また、松本平広域公園陸上競技場玄関ポーチへ優勝杯等を収納する棚の増設については、スペース等の関係で設置できなかった。

事業報告の附属明細書については、第19回評議員会議案書に各委員会事業報告（資料No. 4）を記載したので、今回は省略する。

以上